

社会福祉法人 京都光彩の会

光彩だより 令和5年12月号

今月のもくじ

【ご寄稿いただきました！第1弾】

「偶然性を生み出す支援」



かれん工房の紹介



事業所移転について



ご寄付のお礼



地域交流



後援会のお礼とご報告

京都光彩の会では、『精神障がいのある人たちが、ふつうの市民として、地域で暮らし、働き、社会に参加していくことを支援する』ことを目的に、各事業の運営や計画実施を行っていきたいと思います。

趣旨にご賛同いただき、後援会にご加入いただいた皆様、誠にありがとうございます。皆様のお気持ちを受けて職員一同、今年度も事業運営に邁進して参りたいと思います。

また今後も新規に法人の活動にご賛同いただき、ご支援いただける方々のご加入も随時承っておりますので、なにとぞご協力のほどよろしくお願いたします。

巻頭言

「利用者と共に、一つ一つ壁を乗り越えましょう」

私たちの仕事の原動力は、サービス利用者の願いにあります。その願いを受けとめるレシーバーは、「なぜあなたが精神障害になったのか。なぜ私ではなかったのか」との問いによって培われます。「私もあなたも、かわれやすい心を持っている」、「さまざま苦悩や困難も襲ってくる」、「でも、なぜ、あなたは心の病を深め、私は数か月で元気を回復したのか」。この問いへの答は、永遠に謎です。医学的に病因を指摘する人がいますが、そんな単純なものではなく、社会的孤立や虐待、文化的差別や偏見、生活基盤の脆弱と不安定などが、複雑に絡んでいます。巡り合わせ、としか言いようがありません。

それゆえに、私たちには、社会的・文化的・経済的・人間関係的に、サービス利用者の願いを受けとめ、願いに応える責務があります。巡り合わせは、あなたと私と状況にしっかりと関連しています。あなたを、丸ごと大切な人だ、と心底から思え、おへその真ん中から「大切なオーラ」を伝えられること、あなたが、本当に生きたい生き方を見つけようとし、迷いながらも試行錯誤する道行きに寄り添うこと、を私たちは原点にしてきました。その日々の勤めは、そのまま、私たち自身の尊厳と人生の意味への、新たな気づきに導いてくれます。

今、私たちの法人は、困難な経営状況にあります。ただし、私たちの法人だけでなく、良心的に取り組んでいる精神保健福祉事業所が、軒並みに困難な経営状況にあるのです。つまり、ビジネスモデル化がもたらした制度的・構造的な問題が背景にあります。

こんな時だからこそ、利用者を単なる消費者と見るのではなく、共にリカバリーを目指す協働者となつてもらう必要があります。ここで、リカバリーとは、症状の消退ではなく、自尊心とつながりの回復です。制度の改良も同時に求めつつ、原点を確かめ、力を合わせて、利用者の方々の笑顔に、一つ一つの壁を乗り越えていきましょう。

社会福祉法人 京都光彩の会

理事長 加藤 博史

ご寄稿いただきました！

京都光彩の会と同じように障害者支援を担っている事業所にもぜひ投稿いただき、その思いを広げ京都光彩の会や京都での障害者支援をより良いものにしていくため、今回外部の方からの投稿ページを初めて作りました。

その記念すべき1回目は京都光彩の会とも関わりの深い、相談支援事業所しほふぁーれの金井様にご寄稿いただきました。地域で様々な境遇にある方たちの支援にとっても熱心に愛を持って相談支援をずっと積み重ねてこられている事業所です。是非ご一読いただき、今後の支援の一助として頂けたら嬉しく思います!!



一般社団法人ライフラボ
相談支援事業所しほふぁーれ
金井 浩一

「偶然性を生み出す支援」



私は京都市内で相談支援事業所を営みながら、相談支援専門員という立場で利用者のニーズにもとづいて、サービスや環境のコーディネートや調整を行ったり、利用者の地域生活支援に直接かかわる仕事をしています。利用者の声を聞き、利用者と同僚の人々や環境との間に立ち、お互いが適切につながり合い、もしくは出逢いなおし、元気になっていくことを目指して、個別支援と共に地域づくり的な活動にも取り組んできました。

その活動の中で改めてつくづく感じることは、私たちは当事者の「生きづらさ」にかかわっているということです。生きづらさとはもはや言い尽くされた言葉かもしれませんが、とりわけ精神障害のある人々にとっての生きづらさとは、“暮らしぶらい”といった今的なニュアンスでは決してありません。「生きたいように生きられない」という人生の展望における圧倒的な絶望感やあきらめ、そして事実だと思っています。こんな当事者の生きづらさに果たして自分は向き合えているのだろうかといつも振り返ります。当事者の声をしっかり「聞く」ことができているのか、その声に内在している「私は生きたいように生きたい」という気持ちを肯定し、寄り添い、真摯に応援できているのだろうか。年々当事者が使えるサービスの種類は増えていて、また事業所や支援者の数や選択肢も増えてきています。このことはサービスを必要とする人々の暮らし、活動、余暇等の益々の充実につながってきています。一方で各サービス事業には枠組みがあり、どうしても画一的に提供されがちです。そのようなサービスの展開は、人が生きたいように生きるためにとても大切な何かを奪ってしまう可能性も意識しなければいけないと感じています。

そのひとつが「偶然性」なのではないかと思います。私たち支援者は目的や目標をもって利用者にサービス等の支援を提供していますが、仮にその目標が達成できて利用者の豊かな笑顔に出会えた時には、自分たちが提供してきた支援がよかったのだとつい安直に評価してしまうものです。しかし、おそらく利用者の豊かさや目標達成に寄与したものは支援そのものだけでは決してなく、利用者自身が呼び寄せた、また支援が副次的に生み出した「偶然性」の部分も大きいように思うのです。

例えば、出会いを広げたい、社会参加をしたいという望みをもって就労継続支援B型に通所されていた方が、通所の行き帰りによく寄っていた喫茶店のマスターと仲良くなり、喫茶店の手伝いという仕事を得て、その後一般就労につながったケースがありました。サービス提供によって通所先の事業所内での出会いの広がりを目指していた支援者にとって、喫茶店のマスターとの出会いや、ましてやその先の一般就労など一切想定をしていなかったことでした。まさにそこに偶然性がありました。偶然がもたらした出会いが本人の生きたいように生きることを偶然手伝ったのです。おそらく利用者が困らないようにとの思いで支援者が綿密な計画を立てれば立てるほど、またサービスをしっかりと提供すればするほど、安全と安心は高まりますが、一方できっと利用者の生活に起こるだろう偶然性は失われていく。そんな矛盾を十分に自覚しながら、私たちは支援にかかわらないといけないと思うのです。偶然性の中には、利用者に限らず、人がひとりの人としての可能性や希望を広げていく鍵のようなものがあるように思います。縁や出会いというのはおそらく偶然の産物で、人々が生きる地域そのものも様々な偶然が重なり、つながりあって奇跡的に出来上がったものと捉えることができます。そんな「地域」での支援に従事している私たちは、本人や環境の持つ力を信じ、大切にしながら、提供しているサービスや支援の中にいかに“余白”を用意できるかが重要に思います。そのことが想定外の偶然性を生み出し、引き込むことにつながり、結果として本人の「生きたいように生きたい」を支えることになるのではないかと思います。

コロナ禍を経て、近所づきあいや地域活動、飲み会など、人付き合いは断捨離されていく傾向にあります。また、確実的かつ効率的なものがより歓迎されるようになってきているように感じます。そんな時代の流れの中で私たちはこれからどのように偶然性を生み出す実践をして、人々の豊かな暮らしを創造していくのか、ぜひ考えていきたいものです。

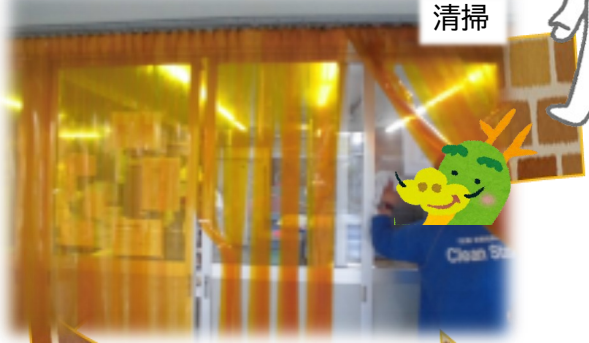
かれん工房のとある1日

かわるくま
かれん工房



清掃

09:15



12:00

他にも箱の組み立てなどの作業もありますよ

配食



3F 休憩室



所内作業



レクリエーションの様子

16:00

種類豊富につくっています！

自主製品



『京都市朱雀工房』『なごやか』『なごやかサロン』 新施設への移転に伴う所在地・連絡先の変更のお知らせ

師走の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度当法人の運営する『京都市朱雀工房』『京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」』『こころのサポートふれあい交流サロン「なごやかサロン」』及び法人事務所が、京都市の新施設『COCO・てらす』に移転することになりました。つきましては、移転に伴い、下記の通り所在地や連絡先が変わりますので、ご案内いたします。

1. 所在地

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1番地の20 COCO・てらす4F

2. 連絡先

事業所名	電話番号	ファックス番号
京都市朱雀工房	075-323-3201	075-323-3220
京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」	075-323-3203	
こころのサポートふれあい交流サロン「なごやかサロン」	075-323-3204	
相談支援事業所「こうさい」※	075-323-3205	

※相談支援事業所「こうさい」の所在地（住所）は変わりません。

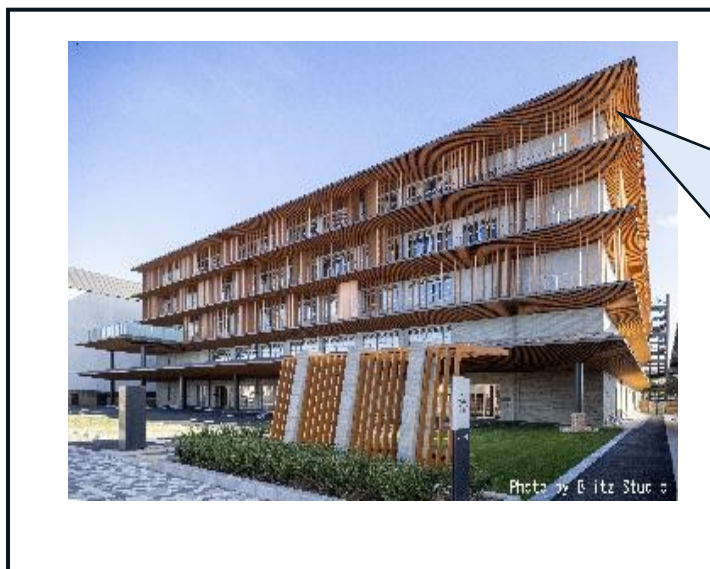
3. 変更日

2024（令和6）年1月4日（木）

但し、電話番号及びファックス番号は工事の都合により1月4日（木）午後から開通となりますので、午前につきましては上記の番号にかけていただいてもつながらない事をご了承願います。

4. アクセス

- ・市バス「西大路松原」バス停から徒歩4分
- ・阪急「西院」駅から徒歩10分
- ・京福「西院」駅から徒歩10分
- ・JR「丹波口」駅から徒歩15分



東館エレベーターにて4階にあがり、降りて正面の入り口横にある『インターホン』で呼び出してください。廊下を奥に進むと『受付窓口』がございますので、そちらをお訪ね下さいますようお願い致します。

ご寄付の御礼

この度、新施設移転のための特別ご寄付にご協力いただき誠にありがとうございました。

皆様からのご厚意により、総額1,409,000円のご寄付をいただきました。

いただいたご寄付は、新施設への移転費用の一部や今後の施設運営に活かしていきたいと思っております。

社会福祉法人 京都光彩の会

理事長 加藤 博史

後援会長 岩崎 隆二



ご寄付をいただいた皆様(順不同)

新屋久幸様・大石豊様・松坂恒子様・和田悠花様
西田すみ様・森本直美様・折坂義雄様・林安廣様
竹林亜樹様・源田トシ子様・丸井規博様・占部美恵様
和田隆夫様・上村啓子様・今井利美様・今井健太様
野地芳雄様・戸田則子様・森本竜樹様・松田恭子様
土居小夜子様・嶋田佐和子様・岩崎隆二様 他匿名3名

地域交流

ミレニアムライオンズクラブ 桂川清掃活動報告

2023年10月に、今年もミレニアム・ライオンズクラブの桂川清掃活動に参加させて頂きました。嵐山公園中之島地区を中心に清掃作業に取り組んだあと、4年ぶりにバーベキューでの食事を楽しむことができました。ライオンズクラブの皆様の細やかなお心遣いに深謝致します。



今年もバナナを寄贈いただきました。

今年も、株式会社朱常分店(しゅうつねぶんてん、京都市下京区)よりバナナが届きました。株式会社朱常分店は、1959年より毎年2回、「栄養価の高いバナナを気軽に食べてもらいたい」との温かい思いで、京都市にバナナの寄付を続けてこられました。128回目の今回は、241箱、約3トンのインドネシア産の美味しいバナナを児童、高齢者、障害のある市民に届けてくださいました。変わらぬご厚情に心より御礼申し上げます。



利用者大募集!!

就労 移行支援 就労 継続支援B型

京都市朱雀工房、西山高原工作所、ワークステーションかれん工房では上記の利用者様を募集しています。お気軽にご相談ください。

広報委員会 委員

- 田中 稔一 (支援センター「なごやか」)
- 植田 真由 (支援センター「なごやか」)
- 高橋 恒明 (京都市朱雀工房)
- 佐々木 瞳 (ワークステーションかれん工房)
- 兵井 貴人 (西山高原工作所)
- 都竹 桃子 (グループホーム 賀陽・山ノ内・光)
- 松岡 芽以 (グループホーム 賀陽・山ノ内・光)

編集後記

みなさま、今回も光彩だよりをご覧いただきありがとうございます。12月になり、2023年も残すところあとわずかとなりました。今年はこのような1年でしたか？コロナの類型が移行され、少しずつイベント参加や外出の機会が増えてきたのではないのでしょうか。私はコロナの流行と同時期に社会人デビューしました。当初は感染対策の日々でしたが、今年に入ってから利用者の方と外出したり、一緒に食事をいただく機会が増え、普段のかかわりで見えない新しい一面を知ることになりました。そして今回の12月号が、今年最後の光彩だよりとなります。いかがでしたでしょうか？

また、今回初めて法人内の職員以外の方に原稿記事をお願いしました。記念すべき第一回は相談支援事業所しほふあーれの金井様にご執筆いただきました！法人の評議員として又地域支援者として様々な場面でお世話になっております。この度は、ご寄稿いただき、ありがとうございます。京都光彩の会の法人事務所も少しずつ移転となりますが、これからもつながりを大切にしていきたいです。2024年も京都光彩の会と、光彩だよりをよろしくお願ひいたします。(松岡)

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai.Inc

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター 1 F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行: 京都光彩の会 広報委員会
発行責任者: 中條 了
印刷: 西山高原工作所